
アメピグ物語

ドンダゴウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アメピグ物語

【Nコード】

N4397Q

【作者名】

ドンダゴウ

【あらすじ】

ピグの世界に舞い降りた一人の青年。彼は仲間を求めているがそれもかなわず一人でピグ生活を送ることに……。きのこ争奪戦で幕を閉じる初日をぜひお読みください！

初日の地獄（前書き）

暇人が書いた暇人のための小説。読んでるとだんだん暇人がかわいそうになってくるぞw

初日の地獄

俺の名前はドンダゴウ

ピグに生きる正義の味方だ。

ピグの世界ではあちこちに暇人がある

もうきのこの上に寝てる者すらいるようなところだ

そんなところで正義の味方をしている俺は

別に敵がいるわけでもないから

俺事態も実は暇人の仲間だ。

この物語の最初がこんな形で

始まってしまったことを悔いていいいるが

時すでに遅し。

ここまで書いて消すのは俺にはできない

ってことでぐだってしまったが

この物語は結局

俺のピグ生活をみんなに紹介していいこうではないか

というどうでもいい暇人の暇人による暇つぶしだ。

暇人は読んでつてくれ！

それでは本編スタート・・・

俺、ドンダゴウは仲間を探した。

ピグの世界にたくさん生えている

きのこの上に寝ていた若者に声をかけてみた

「お主、わしの仲間にならんか？」

いきなりトレートすぎるのでは？

とも思ったがまだわからないうえ

直球勝負してみた。

がしかし、若者は寝たまま返事を返してくれない・・・

初めて勇気を出して話しかけた俺がバカみたいだ

ここにきてまさかのしかと。

もういいきのこに座ってるやつは信用できない

俺はそう考え「発表席」と書かれている

木の上に立っている爺さんに声をかけた

「爺さんや俺の仲間にならんねえ？」

爺さんにこういうと爺さんとはとつさに

「若者よそれが爺に対する言葉づかいか？」

と何ともめんどい答えが返ってきたから逃げてしまった・・・

この世界で仲間を探すのは一苦労だ。

もうこの世界では一人で遊ぶしかないな。

そう心に決めた俺は釣りをしに海へと出た。

荒れ狂う海の上

気が付いたら竿を持って

魚の食い付きを待っていた俺。

・・・

なかなか食いつかない。

魚の影が見えた！！

大物だぁあとテンション上がったたら

そのまま通り過ぎてしまった。

なんやねんこれえ

裏切られた感マックスでもうちよつと待つことに

また魚の影・・・

小さい豆粒ほどの大きさしかない。

うそだろこんなつってもしょうがないだろ

と思いつながらにも仕方なく引き上げることに・・・

あれ？

この世界では引き上げるのはとても難しい

初心者俺は説明書も読んでないので

まずやり方が分からなかった。

なんてことだ

こんなチビに逃げられたとあっちゃ

今後二度と釣りができなくなってしまう

そんな考えが浮かんできた俺は

どんなことをしてでもつってやろうと思って

試行錯誤しているうちに

マウスを押しっぱなしにしていた。

何やら丸いのが中心に向かって・・・

おおやり方が分かった俺は必死に

チビとたたかったが分かるのが遅すぎた・・・

やっぱり逃げられてしまった。

ああこれで釣りはできない。

もう一生釣りはしない

そう心に誓った。

どんどんやる事がなくなった俺は

ピグ初日をきのこの上で終わらせようと

きのこがあるエリアに向かった。

ぬぬぬ

なんときのこがすべて占領されているではないか・・・

くそおこんな時に限って

というよりこんなことあったもんだ

みんなきのこに座るとは・・・

しょうがない

初期で用意されている

黒いＴシャツを装備して

戦うしかない。

きのこを分捕るための戦争が始まった

しかし相手が悪い

きのこに座ってるやつらは

どいつもこいつも装備が強すぎる。
初期装備の俺には到底かなわないと
あきらめかけたその時

引換券というすぐれた道具により
装備変更できる状態になっていた。
よしあいつらに負けないほどの
すごい装備を・・・

じゃーん

今年のレアアイテム

レザージャケットできめてやる。

来てみると似合わないのなんの

やはり俺にはこいつらには勝てないんだ

そう思わざる負えなかった

どうしようもなくなつた俺はエリアを変えようとした

その時一つの赤いきのこが見えた

座れるじゃん。

見つけたと同時に走り出したが

ほかのやつと重なってしまったようだ。

エイダブさん・・・

始めてみるやつ。

名前を覚えてしまったことがなんとなく悔しいが

このエイダブさんはいい奴だった

重なった瞬間どいてくれたのだ

これでこの赤きのこは俺のものだ！

ははは

高笑いをしていたら眠くなってきた

うぬぬ

ピグ初日ではしゃぎすぎたな

寝ることにしよう

こうして俺、ドンダゴウの初日は幕を閉じた。

次回予告!!!

きのこに寝てしまったドンダゴウに一体何が!?

新しい仲間ができたドンダゴウ

この後楽しいピグ生活ができるのか!?

気になりまくる次回アメピグ物語 仲間との2日間
もよろしく!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4397q/>

アメピグ物語

2011年10月8日15時55分発行